

山行報告

★弁天山(12月3日)

参加者 会員(障害者5名、健常者13名)
会員外(健常者3名)

武蔵五日市から右手に進み、トンネルを通過して秋川を渡る。そのまま車道を進み、小峰公園の手前から山道になった。しかしすぐに前山公園に到着。ここは、非常に展望が良く大岳山や日ノ出山が間近に見えた。遠くに見えていた山は、三頭山かと思われた。紅葉もきれいで、気持ちのいいところだった。

ここから、ガイドブックにあった道は、今は通行禁止になっていたため、右側の車道におり、遠回りをして弁天山への登山道に戻った。登山道の手前では、エナガやホオジロ、シジュウカラなどが盛んに飛び交っていた。

登山道は、次第に急になり、木の階段を登ると、城山に到着した。ここは、展望はあまりよくないが、広くて気持ちのいい場所だ。小休止をして、弁天山に向かう。山頂からの下りは、以外に急で、標高差も以外にあった。コルから左手にトラバース気味に登り、右に曲がると弁



天山の山頂はすぐだった。

弁天山の山頂は、展望が良く、東京方面がよく見えた。ここで昼食を取り、記念撮影をする。山頂からの下りは、岩が多く、少し歩きにくかった。10分ほどで、洞窟に到着した。数人の人が中に入って、様子を見物する。割りと広く、毘沙門天象が祭られていた。

ここから、少し下ると赤い鳥居に飛び出し、武蔵増戸の駅もすぐそこだった。今日はやや物足りなかったと思いますが、紅葉もきれいで、のんびりと日だまりハイクを楽しめました。

コースタイム

武蔵五日市(9:50)・・・前山公園(10:25,10:40)・・・城山(11:25,11:30)・・・弁天山(11:50,12:45)・・・鳥居(13:15)・・・武蔵増戸(13:40)

★大山清掃登山(12月10日)

参加者 会員(障害者3名、健常者12名)

今日は、大山のごみ拾い登山だ。ガスに包ま

れたヤビツ峠を10時15分に出発。小さなごみしか落ちていないが、軍手をつけ、トングで



ごみを探しながら大山に向けて登る

広いながら登っていく。丸太で土止めをした階段を登っていく。なかなかの急登だ。ごみを拾うだけではもったいないので、目の前に現れたエナガやヤマガラ、ヒガラなどの野鳥を楽しみながら登っていく。



大山山頂にて・白い袋が目立ちます

あまりごみがないように感じたが、Kさんの袋には空き缶がいっぱいだった。登山道を外れたところにたくさん落ちていたそう。人目に付かないところに捨てる、非常に悪質な人がい

るようだ。

ケーブルから登るルートと合流すると、さらに急になるが、すぐに山頂に飛び出した。山頂で昼食にする。トイレに行くと、途中でたくさんのごみを見つけた。ビニールのごみだけでなく、空き缶や瓶の破片もある。人が集まる山頂だけにごみも多いと思うが、悪質で困ったものだ。昼食後、みんなで拾ってから下山にかかる。

下山路もかなりごみがあり、ひどいところは、スーパーからもらうゴミ袋に空き缶をたくさん入れて、土の中に埋めてあるところがあった。Hさんが先頭になり、拾い集める。一升瓶も落ちていたようだ。

見晴台の手前の展望の良い休憩地からは、時間がかかなりオーバーしてきたのでごみ拾いは止め、下山に専念する。見晴台からは、東京都心の高層ビル群などがとてもよく見えた。さらに下ると、江ノ島などの見えるところもあった。

車道を横切る近道を通り、さらに車道に出たところから日向薬師に向けて下った。途中で、安い野菜やみかんを買ってバス停に着くと、大きなゴミ箱があり、そこにごみを捨てさせてもらった。バスもすぐに出発して伊勢原駅に向かった。

コースタイム

ヤビツ峠(10:15)・・・大山(12:05,13:05)・・・見晴台(14:30,14:40)・・・日向薬師(16:20)

★美の山忘年山行(12月17日)

参加者 会員(障害者6名、健常者17名)
会員外(障害者2名、健常者1名)

予定では東武線を使う予定だったが、西武線の直通電車を使った方が早く、かつ安いので、池袋駅に全員集合後、西武線に変更することにする。黒谷駅で、初参加の方やHさんと合流し、自己紹介の後、まずは和銅遺跡を目指す。昭文社の地図を見ると、駅から右斜めに向かっている道に入ってすぐ、左折して登るようになって

いるが、どうも道がないため、地元の方に聞いてみる。すると、駅から横断歩道を渡ったあと、右側に行くとのことなので、引き返して正しい道に行く。

和銅遺跡には、大きな和同開珎の銅像があった。ここから、来たところを引き返し、昭文社の地図のとおり歩くが、なかなか不明確な道で、頼りなかったが、何とか登山道までたどり着いた。



落ち葉を踏みしめながら美の山に登る

葉を落とした冬枯れの木々を見たり、かさこそと鳴る落ち葉の音を聞きながら、緩やかに登っていく。今回は、26人の参加のため、どうしても先頭と最後尾が離れ、長い列になってしまいが、時々立ち止まって待ちながら、ゆっくりと登る。

下草が手入れされたところに出ると、ガードレールが見えて、山頂が近づいたことが分かった。山頂に到着すると、すぐ展望台に登り、周囲の風景を楽しむ。近くに武甲山がよく見え、遠く雲取山や両神山も見えていた。反対側には、秩父の低山が連なる。

ベンチで昼食を取り、記念撮影の後、下山に

★仏果山(1月14日)

参加者 会員(障害者4名、健常者13名)
会員外(健常者1名)

かかる。山頂付近は、桜の木が非常に多く、春はすばらしい桜の林になりそうだ。今は、葉を落としてしまっているが、寒そうな木々と落ち葉の装いもまたすばらしい。

長い木の階段を下っていくと、箕山神社に到着する。人のお賽銭を当てにして、祈った人もいたが、果たして御利益やいかに？ 神社からの階段は、長くて急なので、慎重に下る。



美の山山頂にて

次第に、石混じりの道となり、滑りやすくなったため、真剣にサポートしていただいた。車道に飛び出すと、皆野の駅はすぐそこだった。駅からタクシーに分乗して、満願の湯へ。ここで、お風呂に入った後、忘年会を行った。今年の最多参加賞の表彰を行ったり、和やかに歓談をして、楽しんで帰ることができた。

今年1年、みなさま大変お世話になりました。また、来年もよろしくお願いいたします。

コースタイム

黒谷駅(11:00)…和銅遺跡(11:20,11:25)…美の山(12:50,13:35)…皆野駅(15:15)

今回は、山仲間アルプ始まって以来のハプニングが起きてしまいました。何と、新宿から乗ったメンバーは、少しでも早く行こうと10分前の電車に乗ったのですが、それが何と藤沢行き。間違いに気がついたのは、湘南台でした。慌てて飛び降り、相模大野まで引き返し、本厚木に着いたのは約1時間遅れ。間違いに気づい

た湘南台で、本厚木で待つ人たちに電話を入れ、待っていただくことにする。待っていたみなさんは、お茶会でした。



仏果山山頂にて

平謝りで、1時間遅れのバスに乗り、仏果山登山口から登りはじめる。今回は、昨日行った読図講習会の実地講習。講師のYさんに指導していただきながら、登っていく。

周囲の傾斜や尾根かどうか、また谷を挟んだ隣の尾根の地形を確認し、現在位置を確かめながら歩く。493mのピークの山腹をトラバースし、コルに出る。ここから少し先の急斜面を登り切ったところにある平坦地のベンチで昼食にする。

ここからもなかなかの急斜面を登り、宮ヶ瀬越へのトラバースにかかったところで、アオゲラを発見。3羽くらいいたようだ。宮ヶ瀬越でこれから進む方向を地図とコンパスで確認し、カーブした尾根に沿って歩き、最後の急登を頑張っ

★竜ヶ岳(1月21日)

参加者 会員(障害者1名、健常者6名)

河口湖駅からタクシーで青少年スポーツセンターまで行き、ここから歩き出す。本栖湖の対岸には、三方分山に続く、烏帽子岳が見えている。

ゲートからほんの少し歩くと、すぐに登山道

や丹沢山、蛭ヶ岳を初めとした丹沢の山々が高く聳えていた。足下には宮ヶ瀬湖が広がり、その右手奥には、特異な形をした大岳山を初めとした奥多摩の山々が広がっている。飛龍山や雲取山も見えていたが、はっきりと山座同定するには至らなかった。



山頂から奥多摩方面を望む

山頂からは、北に延びる尾根を下って、野外センター前のバス停を目指す。土から伸びたシモバシラは見るのができたが、植物のシモバシラは見るのができず、残念だった。

仏果山登山口から野外センター前までの所要時間は、予定どおりぴったりだった。予定より1時間遅れのバスに乗車し、心地よい疲れにみんなぐっすり寝込んで本厚木に向かった。

コースタイム

仏果山登山口(11:40)…宮ヶ瀬越(13:30)…仏果山(14:05,14:30)…野外センター前(16:05)

となった。人の歩いたところは、雪が堅く締まって滑りやすいので、女性陣には軽アイゼンを付けてもらう。雪道を登っていくと、薄日が差し始め、富士山も見えてきた。さらに登ると、西に南アルプスの山々が見えてくる。八ヶ岳も見え始めた。

傾斜が緩くなってくると稜線も近い。稜線通しの道に合流すると、視界が一気に開け、富士山が大きく見えてきた。目指す竜ヶ岳の山頂も、

すぐそこだ。樹氷を楽しみながら登っていくと、



竜ヶ岳山頂付近から富士山を望む

広い山頂に到着する。甲斐駒ヶ岳、北岳、間ノ岳、農鳥岳、塩見岳、荒川三山、赤石岳、そして聖岳も山頂を見せていた。南アルプスの名だたる3000m級の山々を一望できるすばらしいところだ。八ヶ岳と奥秩父の金峰山も見えている。

山頂では、Nさんが持ってきてくれたうどんを、富士山を見ながらいただく。身も心も温まる。1時間以上休憩し、記念撮影をして、下山にかかる。笹の道を少し行くと、端足峠（はし



山頂でのうどんが最高でした

たとうげ)まで急な木の階段を下りる。南西面を向いているため、雪は付いていない。軽アイゼンを外して下りる。端足峠からは、コケの美しい登山道を下る。A沢貯水池を過ぎ、ゲートのところでタクシーが待っていてくれた。

青空とはいきませんでした。予想以上の展望に恵まれて、楽しんだ1日でした。

コースタイム

青少年スポーツセンター(9:40)…竜ヶ岳(12:00,13:25)…端足峠(14:05)…根原(15:10)

★湯の丸高原(1月27日～28日)

参加者 会員(障害者5名、健常者12名)
会員外(健常者1名)

☆1月27日

ロッジで美味しい昼食をいただき、雪上散歩に出かける。雲が多いが、部分的に青空も見えるまずまずの天気だ。

昨年に比べると、今年は非常に雪が少ない。キャンプ場の炊事小屋の屋根は、去年は顔より低かったが、今年はコンクリートのブロックまで見えている。しかし、湿原に入ると、スノーシューを履かずに来たメンバーは、ズボズボ足が潜って苦勞する。いろんなトレースがあるの

で、本流を外れてしまったようだ。尾根に出て夏道通しに進んだグループと、まっすぐつつじ平に向けて登ったグループに分かれてしまった。真っ直ぐ登ったグループは、途中から傾斜が増し、苦勞して合流した。それでも、無理だろうと思ったつつじ平に到着することができた。記念撮影をして、来た道を引き返す。



コガラ

ロッジに着き、湯の丸高原ホテルの露天風呂

で汗を流す。夜は、つきることなく歌を歌い、懇親会を楽しんでいるうちに更けていった。

☆1月28日

ロッジでゆっくりと朝食をいただき、8時30分にロッジを出発する。スキー場の脇を登り、途中から林道コースに入っていく。登るにつれて、カラマツの木々は、白い氷をまとい樹氷となっていく。青空に映えて美しい。

夏道はトレースがないので、林道コースをそのまま歩き、リフトの終点に到着する。ここから、夏道に入っていく。樹林帯をしばらく進んで行くと、見晴しの良いところに着いた。目の前には、箆ノ登山が聳え、隣には水ノ塔山も見える。水ノ塔山の山頂には、二人の人影も見えた。輝く太陽の下、樹氷が美しく、銀世界に倒れ込んで、気持ちよいと楽しんでいる人もいた。

目標のコマクサ岳は、まだ先だが、時間切れでここまでする。帰りは、スキー場の脇を真っ直ぐ下り、あっという間にロッジに着いた。ロッジで、美味しい昼食をいただき、帰る準備

を始める。



ロッジの家庭的な雰囲気と、雪の世界に遊んだ2日間でした。

コースタイム

2/27 湯ノ丸ロッジ(14:10)…つつじ平(15:35,15:40)…湯ノ丸ロッジ(16:20)

2/28 湯ノ丸ロッジ(8:30)…リフト頂上(9:50)…池ノ平付近(10:45,11:00)…湯ノ丸ロッジ(12:10)

★宝登山(2月3日)

参加者 会員(障害者2名、健常者8名)
会員外(健常者1名)

長瀨駅に降り立つとものすごい人の波だった。危うくメンバーを見失いそうになったが、全員集合して、駅前で挨拶をする。

駅から車道を登山口目指して登る。麓の宝登山神社では、Hさんのお賽銭に便乗して、みんなでお参りをする。これじゃあ御利益は期待できないあ〜。

ロープウェイを使わず、林道を登る。途中に近道があったので、何度か近道を使った。この道は、喧噪を離れ、静かに登山を楽しめる良い道だ。途中に動物園があったが、こちらのメン

バー一同、動物園の動物よりも面白いので、パスして上を目指す。



宝登山奥社を過ぎると山頂に飛び出した。ロウバイが満開で、山頂直下の斜面一面を黄色く染めている。ロウバイの花の向こうに、両神山がくっきりと見えていた。左手には雲取山や西谷山、武甲山など、奥多摩や奥武蔵の山々が連な

っている。富士山は見えなかったが山頂の少し下から真っ白な浅間山が見えた。

山頂では、Nさんの配慮で、ラーメンが振る舞われた。宝登山神社の溜まった手洗水で食べたのだが、みんな美味しいと喜んでいた。



山頂からは、急な道を下り、野上峠（小鳥峠）を目指す。林道を過ぎ、登山道に入ると、冬枯れの林の中は、木漏れ日が差し込み、まさに日

だまりハイクだ。途中から右に折れ、氷池を見ることにする。最初の登山道では、道をふさいで昼食中の二人連れがいたため、次の登山道から下ったが、ここは通る人が少ないようで、あまり道が良くなかった。氷池は、プールのようなところで氷を作り、それを切りだして、かき氷やカクテルに使うらしい。しっかりと氷が張っていた。

来た道を引き返し、長瀨アルプスを縦走する。気持ちよい木漏れ日に、帰りたくないという人もいた。万福寺に下り、車道を野上駅に向けて歩いていった。途中の畑では雌のジョウビタキが珍しそうにこちらを見つめ、尾を振っていた。

コースタイム

長瀨駅(10:05)…宝登山(11:25,12:30)…氷池(13:30)…万福寺(14:55)…野上駅(15:10)

★西穂独標(2月10日～11日 リーダー養成)

参加者 会員(障害者1名、健常者6名)

夜半、かなり強い風が吹いたが、明け方には止んでいた。しかし、雪は降り続けているようだ。風の音も人の声も知らずにぐっすり眠れた人もいて、うらやましかった。

☆2月10日

松本は、すばらしい天気だったが、北アルプス方面は、高い山に雲がかかっていた。バスで新穂高温泉に向かうが、沢渡付近までほとんど雪らしい雪がなかった。さすがに安房峠を抜けると、雪はぐっと増える。

ロープウェイを乗り継いで、西穂高口駅から登り始める。トレースはしっかり付いていて、ワカンなどは必要なかった。どんよりとした曇り空だったが、時折青空も見え、風もない穏やかな天気だった。

尾根が近づき、トラバースを始めると、ほどなく西穂山荘に到着した。受付を済ませ、私たちは一部屋を使わせていただいた。

☆2月11日



6時30分に朝食を食べ、早く準備が終わったので、小屋前の登り口のラッセルをしてトレースを付けた。時折青空が見える時もあるが、天気は良くない。アイゼンを付け、全員で出発する。丸山の少し手前で、KさんとTさんが、引き返すことにする。

平坦な尾根をしばらく行ったところで、引き

返そうかという話が出たが、時間的にはまだ余裕があるので、もう少し先まで行ってみることにする。長い登りにかかるところで、ロープを出し、全員で繋ぎあう。強い西風に乗った小粒な雪が顔面に吹き付けるため、眼鏡をしている人は雲ってよく見えなくなる。時々ホワイトアウトになり先が見えなくなるが、一瞬霧が晴れてピラミッドピークや独標も見えた。独標手前の岩場は、ロープに繋がりながら慎重に通過した。最後の岩場を残すだけになったが、時間が押し迫ってきたこともあり、ここで引き返すことにする。Yさんの眼鏡のレンズが外れてどこかに行ってしまった。どうしても見つからないため、あきらめることにする。



吹雪の中、独標を目指す

岩場を過ぎて、少しいたところで、登ってくる人とすれ違う。登ってきた人のルートを下りるが、こんなところは登りにはなかった。たぶん、右下の雪の斜面を登ったのだらうと思い、行ってみるが、どうもおかしい。ガスに巻かれて視

界が利かないため、少し待つことにする。霧が晴れた時、独標が間近に見え、このルートは完全な間違いであることが分かったため、引き返すことにする。上には、大勢の人もいた。

正しい尾根に戻り、前の人について下るが、次第に離される。先頭のHさんが、ゴーグルをしていて、踏み後が見えないということだったので、先頭を交替して下る。こんな時は、コンタクトレンズが役にたつ。それでも、まつげが凍って見えにくい。

急な斜面を下り、あとは平坦な尾根を丸山まで行き、西穂山荘に下った。しかし、松本行きのバスに乗るために余裕がないため、小屋で休憩せず、すぐに下ることにする。アップダウンのあるこの尾根は、登りになるとペースが落ちるため、時間が気になったが、ロープウェイの発車5分前に到着した。あとは、文明の利器が、安全なところまで運んでくれる。

冬山の厳しい本来の姿を経験できたリーダー養成登山だったと思います。お疲れさまでした。

コースタイム

2/10 ロープウェイ西穂高口駅(14:10)…西穂山荘(15:50)

2/11 西穂山荘(7:40)…独標下(9:40)…西穂山荘(11:10,11:30)…西穂高口駅(12:40)

★弘法山は、雨のため中止しました。

講習会報告

★読図講習会(上馬地区会館)(1月13日)

参加者 会員(障害者4名、健常者8名)

講師：Y理事

臨時総会開始前に、横溝理事に講師となっただき、読図講習会を開催しました。地図の読み方やコンパスの使い方などを丁寧に教授していただき、これからの安全登山に役立つこ

とが期待できます。

また、翌日の仏果山では、読図の実践講習ということで、実地で現在地の把握や、これから進む方向などについて学びました。登山を楽し

むに当たって、読図は最も基本的な技術です。ぜひ、市販のテキストなどで学んで、安全登山に役立ててください。

☆楽しい花と昆虫の講習会(市川市文化会館)(2月17日)

参加者 会員(障害者1名、健常者6名)

会員外(健常者14名)

講師：田中先生

フラワーエコロジストで、日本花粉学会の第1回学会賞や第34回吉川英治文化賞を受賞すると共に、『花の顔 実を結ぶための知恵』、

『花と昆虫がつくる自然』など多数の著書を発行している田中肇先生をお招きし、「楽しい花と昆虫の講習会」を開催しました。

多くの写真やユーモアを交えた楽しい話に、2時間強の時間もあったという間に過ぎてしまいました。本だけでは理解しにくいことも、実際にお話を伺うことで、新しい発見がたくさんありました。これから、花を見つめる目が今まで以上に豊かになることと思います。

★岩登り講習会(鷹取山)(2月25日)

参加者 会員(障害者2名、健常者8名)

鷹取山での講習会は、駅から近いこともあり、岩登りをしないで、のんびりする人も参加してもらえる。今回も、中央広場の風の当たらないところで、餅入り豚汁やコーヒーを作っていた。

岩トレ組は、中央広場周辺の3級程度の岩場から4級+程度の岩場を登った。今回初めて岩トレに参加した方もいたが、やはり4級+(～

5級程度)のルートは厳しかったようだ。

ただ、チャレンジする楽しさと、美味しい料理を食べられて、満足できた1日でした。



その他事業報告

★臨時総会(1月13日)

出席者 社員(正会員)41名(うち書面委任者24名)

社員(正会員)総数(51名)の1／

3以上の出席があり、総会が成立

会員制度と入会金および会費が変更になり

ました。また、収益事業を廃止し、特定非営利活動の種類に子どもの健全育成を語る活動を追加しました。

詳細は、総会議事録をご参照ください。なお、変更後の定款は、千葉県認証を受けてから有効になります。

個人山行報告

★天狗岳(12月23日～24日)

参加者 会員(障害者1名、健常者7名)

☆12月23日

昨日の夕方出発して、Iさんの山荘に泊めていただいたグループと、今朝東京を出てきたグループが、小淵沢で合流して、渋ノ湯に向かう。

渋ノ湯の手前の道は、去年は雪が多く、坂が始まったところでチェーンを巻いたが、今年は雪が少なく、チェーンなしで渋ノ湯まで入ることができた。

渋ノ湯で、大変お世話になったIさんと別れ、支度をして山道にはいる。登山道には雪があるが、積雪量は5cmくらいだった。歩き始めるとすぐに暑くなり、上着を脱ぐ。今年は昨年と違い、入山から天気が良く暖かい。

空腹で疲れを感じ始めた頃、中山から続く尾根上に出て、昼食にする。昼食後、尾根を少し歩き始めたところで、木の枝に架かっていた一眼レフカメラをYさんが発見する。銀鉛のEO Skiss だった。黒百合ヒュッテに届けることにする。

樹林帯を登り、両サイドから尾根が迫ってきて、しばらく歩くと黒百合平に到着した。受付を済ませ、小屋組とテント組に分かれる。雪上訓練をしようと思っていたが、雪が少なすぎて、滑落停止などできないため中止する。テント組の男性3人は、テントを設営後、小屋のメンバーと合流して、クリスマスを祝った。

☆12月24日

テント組は、4時に起床し、朝食と出発の準備をする。夜半、空は雲に覆われていたが、6時頃には、満天の星空に変わっていた。4時には-11℃だった気温が、6時半には-13℃

に下がっていた。

小屋の食事が遅かったこともあり、ヒュッテの出発は7時となった。天狗の奥庭経由で、天狗岳を目指す。モルゲンロートに染まった槍穂高が見え、感嘆の声が上がる。朝日を浴びた周囲の風景もすばらしい。夜半の霧の影響か、木々には樹氷ができていた。



モルゲンロートに染まる北アルプス

雪が薄く付き、石がゴロゴロする歩きにくい道を、HさんにMさんをサポートしていただき登っていく。ゴーロ帯を過ぎ、中山峠からのコースと合流する手前で、ストックで来た二人と、弱視のMさんをサポートするため、ロープを出し、Yさんと私が末端に繋がり、3人を間に挟む形で、コンテニューアスで登ることにする。



天狗岳に向けて大きな石の道に登る

稜線の道は、どうも間違った踏み後に従ってしまったようで、以前来た時に比べて、やや厳しいコースとなっていた。それでも、天狗鼻を越え、東天狗岳の山頂に無事到着した。山頂から

は、北アルプス、乗鞍岳、御岳、仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、北岳、鳳凰三山、阿弥陀岳、赤岳、硫黄岳、金峰山、浅間山、そして蓼科山と360度の展望を楽しめた。しかし、すでに9時45分になっており、予定時刻を大幅にオーバーしているので、ゆっくりはできない。



西天狗岳に登り返し、そのまま西尾根を下っていく。山頂直下は岩混じりであるが、下まで落ちてしまうような危険なところはなく、スムーズに下る。岩場から樹林帯に入っていく。幸い、トレースがあるが、もしなかったらかなり苦労するところだ。

第2展望台を通過し、第1展望台で昼食とする。非常に展望が良く、また周囲の雪の上には、氷の結晶が無数にたっていて美しく、まさに自然が作った芸術だった。気温が高いせいか、や

や湿気を帯びていたようだが、気温が低く乾燥していたら、以前聞いたような、シャラシャラときれいな澄んだ音色で崩れるのだろうと思う。

西尾根から唐沢鉱泉に下る。なかなか長い道のりだったが、沢音が近くなり、沢を渡ったところで、唐沢鉱泉に到着した。本来は、Hさんの車を置いてある渋ノ湯まで歩く予定だったが、みんなで協議して、唐沢鉱泉までタクシーを2台呼んで、1台は渋ノ湯に行ってもらふことにする。ということで、唐沢鉱泉の古風な湯船につかり、ホッとしてタクシーに乗り込んだ。走り初めてすぐ、スリップして動けない車が道をふさいでいた。タクシーの運転手さんたちが、チェーンを貸してあげて、かなりの時間をかけ、何とか道を空けて他の車が通れる状態にしてくれた。茅野駅に着き、タクシーを降りると、底冷えがするほど冷え込んでいた。

コースタイム

12/23 渋ノ湯 (11:00) … 尾根上の分岐 (12:05, 12:30) … 黒百合ヒュッテ (14:15)

12/24 黒百合ヒュッテ (7:00) … 東天狗岳 (9:45, 9:55) … 西天狗岳 (10:25, 10:50) … 第1展望台 (12:20, 12:35) … 唐沢鉱泉 (14:20)

各種連絡事項

●ホームページ情報

ホームページのアクセス数は、2月末日現在約36000のアクセスがありました。ホームページは、機関誌に掲載できない多くの写真が掲載されています。パソコンをお持ちの方は、ぜひご覧ください。さらに、メールを使える方同士で、メーリングリストも運営していますの

で、パソコンをお持ちの方で、メーリングリストに参加を希望される方は事務局まで申し込みください。また、各種情報も迅速に流しています。もし、これからパソコンを購入したいという方がいましたら、ぜひ事務局までご相談ください。

○2006年の最多参加賞・新人賞

2006年、1年間の最多参加賞は、K. Tさんでした。1年間に27回参加していただき

ました。登山やハイキングなどで34回開催しましたが、その約80%に参加していただきま

した。また、健常者部門の最多参加賞は、18回参加したK. Oさんでした。新人賞は、9月に入会し、12月までに6回参加したS. Kさんでした。副理事長が選ぶ特別賞には、T. Iさんが選ばれました。みなさま、受賞おめでとうございます。

最多参加賞を受賞して

今年七十歳を迎える私が山に参加できるのもアルプの皆さんのお陰だと心より感謝しております。昨年はお陰様で健康に恵まれアルプの皆様を初めまわりの理解を得て多くの山行に参加することが出来て本当に有り難く思っております。今まで山行が出来たのも、もちろん健康も大事だと思いますが、アルプの山行き内容にあると思っています、「ハイキングから、百名山迄」変化があり子供から若者そして年配者迄多くの方々との出会いがあるのが楽しみです。出来るだけ今年もたくさん参加できるように、アルプの山行に合わせて体を動かすようにしています、私も古い機械と同じで使っていないと多分錆び付いてしまいますので、出来るだけ参加して錆び付かないようにしたいと思っておりますので、宜しくお願いします。

K. T

最多参加賞（健常者部門）を受賞して

立春も過ぎ、日一日と暖かな今日この頃です。昨年は数多くの山行に参加することができました。又年末には賞までいただくことができました。

アルプに入会するまでの私には想像もつきませんでした。太っていたので、登山など絶対、私のやれることではないと思っていました。なぜあんなに苦しみ登り、また下りてくることが良いのか分かりませんでした。ところが参加することにより山の雄大さ、自然の大きさ、また達成感を知り、山の花の可憐さ、山鳥の鳴き声など、思いもしませんでした。自然の中にいる自分は、本当にちっぽけで自然に生かされていることが思い知らされました。

これも多くの皆さん方と知り合うことができ、楽しく参加させていただくことができるおかげです。私自身、こんなに山行に熱中で、今では元気の源になっています。これからも数多く参加できるよう健康に気をつけていきたいと思えます。

K. O

2006年の新人賞を受賞して

長年の思いがかない、昨年9月よりグループの一員として参加させていただきました菊川です。年齢、体力に不安があり、その上、初めての方々とうどう接すればとの思いを抱きながら「岩殿山」へ初挑戦。

待ち合わせ場所の新宿駅には、笑顔の皆さんが、初めての私を「よろしくね」と温かく迎えてくれ、待ちに待った山登りのスタートを心嬉しく切りました。

これまでの山登りの中で、障害を持った方と接し、何事に置いても、明るく細やかな心遣い、着実に行動する姿を目のあたりにして、「障害者」と言う言葉があてはまるのだろうか・・・という疑問が出てきました。これは今後の私の課題かもしれません。

これからも沢山の体験をしながら、草花の美しさ、季節の移ろいを楽しみたいと思います。昨年の忘年会では、思いがけず「新人賞」をいただき、充実の一年でした。これからも皆様の足手まといになるとは思いますが、どうぞよろしくお願いします。

S. K

▲会員制度の変更

臨時総会の報告にも記載しましたが、2007年度より会員制度を一部変更させていただきました。未成年会員を設け、未成年の方に入会していただきやすくと共に、正会員と賛助会員の違いを明確にしました。賛助会員のみなさまには、ぜひ正会員になっていただき、会

の目的を実現するために、活発なご意見をいただきたいと思います。賛助員として、会の財政面を支えていただけることも大歓迎です。会の活動への参加状況に応じて、ご検討いただけましたら幸いです。詳しくは、臨時総会の議事録と細則をご確認お願いいたします。

今後の計画

●子ども登山教室の開催

次年度から子ども登山教室を開催することが臨時総会で承認されました。子どもたちに、雄大な山の自然のすばらしさを伝えると共に、目標を持ってステップアップすることの喜びや障害を持つ人と接すること、自分のためでは

なく人のために当たり前のように力になる人がいることなどを伝えたいと思います。このことは、山仲間アルプでなければできない貴重な活動だと思いますので、スタッフやボランティア参加などで、ぜひご協力をお願いいたします。

○定期総会の開催

定期総会を以下の通り予定していますので、事前に予定への組み込みをお願いします。

日時：平成19年5月12日（土）15時～
場所：世田谷区上馬地区会館

▲2007年度事業計画の一部訂正

5月27日に予定していた岩登り講習会を、同日に子ども登山教室を開催するため、5月

26日（土）に変更させていただきましたので、よろしくお願いします。

△個人山行の計画

個人山行を計画されている方は、事務局まで計画書を提出ください。計画書を提出していないと、スポーツ保険の対象にならない可能性が

あります。もしもの時のために、必ず提出するように心がけてください。

会員情報

◎新入会員のお知らせ

12月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願いします。（敬称略）
正会員

編集後記

・理事長のつぶやき

来年度から、子ども登山教室への取り組みを開始し、子どもたちに山の自然の雄大さや美しさを伝えたいと思っています。また、障害を持って、登山にチャレンジする人がいることや、当たり前のようにサポートしてくださる人がいることを子どもたちに伝えたいと考えてい

ます。

いじめなどの悲しい事件が多い中で、現実の雄大な自然に接したり、人の心の温かさに触れることができれば、きっと子どもたちの心に何かが芽生えてくれることと思います。みなさまのご協力、よろしくお願いいたします。

・次回発行予定は、6月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

